

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

令和6年10月～12月実績

令和7年1月～3月見通し

福井県商工会連合会

I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 165企業（回答率100.0%）
6. 調査対象期間 令和6年10～12月期実績及び令和7年1～3月期見通し
7. 調査時点 令和6年11月15日（金）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.6%	24	14.6%	100.0%
小売業	49	29.7%	49	29.7%	100.0%
サービス業	54	32.7%	54	32.7%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について〈増加・上昇・好転〉の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

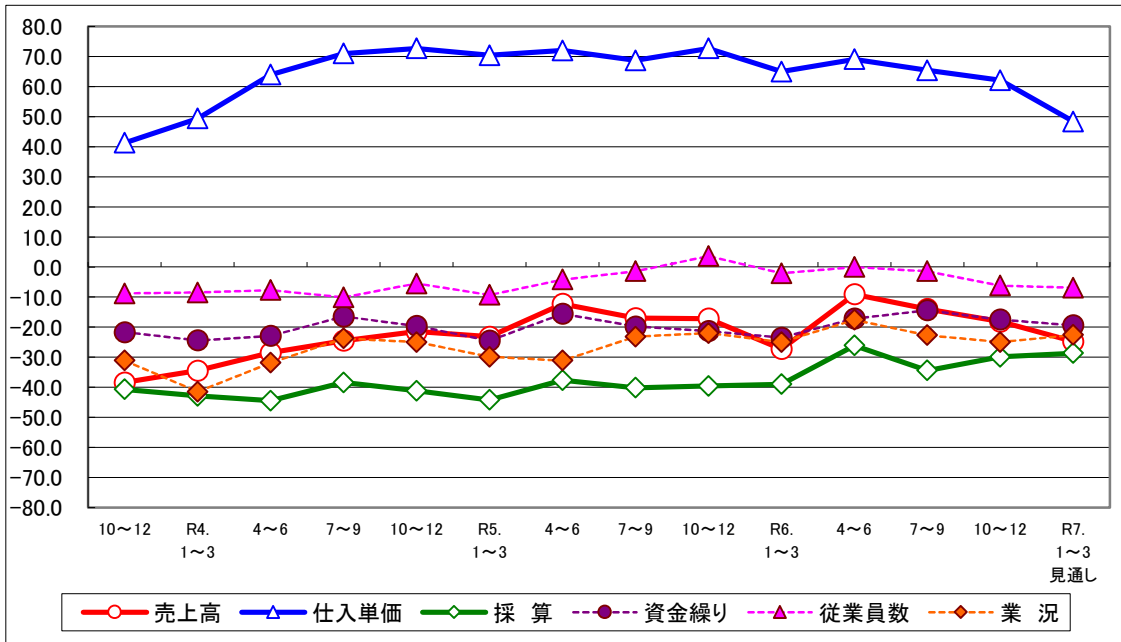
10. 分析執筆者 仁愛大学人間学部 教授、福井県立大学 名誉教授 南保勝氏

全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

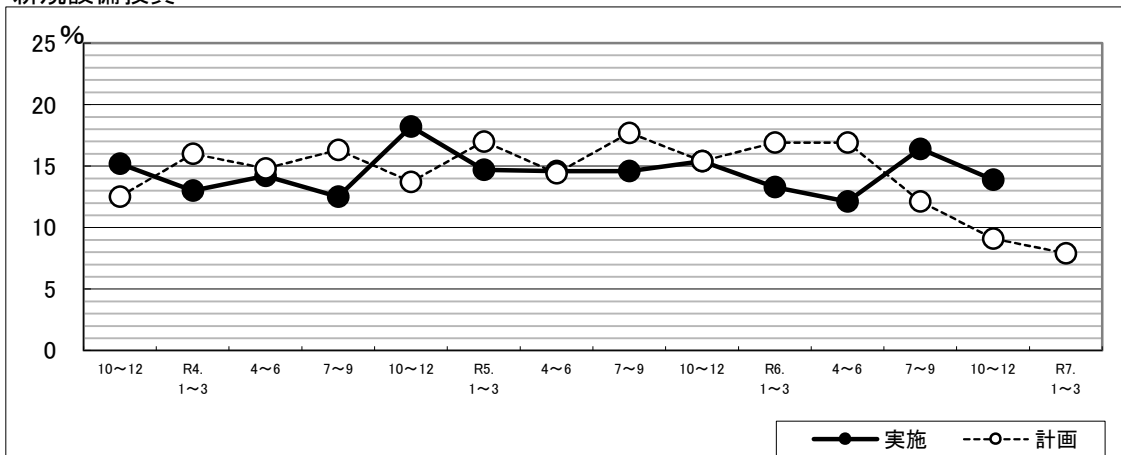
景気動向推移(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
10~12	▲ 38.4	41.3	▲ 40.7	▲ 21.7	▲ 8.8	▲ 31.1
R4.1~3	▲ 34.5	49.4	▲ 42.9	▲ 24.4	▲ 8.5	▲ 41.5
4~6	▲ 28.5	64.0	▲ 44.5	▲ 22.9	▲ 7.7	▲ 31.9
7~9	▲ 24.5	71.0	▲ 38.4	▲ 16.5	▲ 10.1	▲ 23.8
10~12	▲ 21.5	72.7	▲ 41.2	▲ 19.6	▲ 5.5	▲ 25.0
R5.1~3	▲ 23.2	70.4	▲ 44.2	▲ 24.5	▲ 9.3	▲ 29.9
4~6	▲ 12.3	72.0	▲ 37.7	▲ 15.6	▲ 4.2	▲ 31.1
7~9	▲ 17.0	68.7	▲ 40.2	▲ 19.8	▲ 1.4	▲ 23.2
10~12	▲ 17.2	72.7	▲ 39.6	▲ 21.3	3.6	▲ 22.0
R6.1~3	▲ 27.3	65.0	▲ 39.0	▲ 23.5	▲ 2.1	▲ 25.0
4~6	▲ 9.1	69.1	▲ 26.1	▲ 17.2	0.0	▲ 17.6
7~9	▲ 14.0	65.4	▲ 34.4	▲ 14.4	▲ 1.4	▲ 22.7
10~12	▲ 18.2	62.1	▲ 29.9	▲ 17.5	▲ 6.2	▲ 25.0
R7.1~3見通し	▲ 24.8	48.4	▲ 28.7	▲ 19.4	▲ 6.9	▲ 22.6

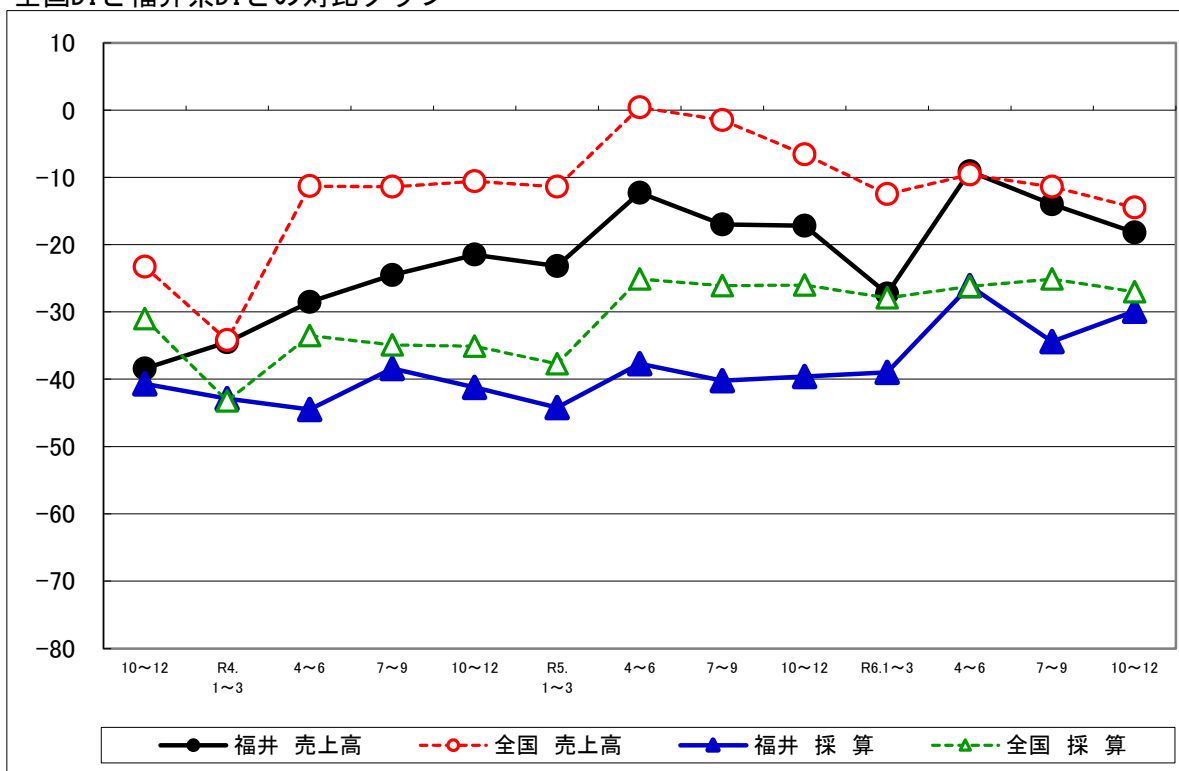
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

R6年の日本経済を概観すると、一部自動車メーカーによる出荷停止の緩和や、良好な春闘賃上げムードを背景とした所得改善効果、さらには定額減税の開始などにより、景気は力強さにかけるものの持ち直しを継続。毎月内閣府が公表する「月例経済報告」を見ても、基調判断としては「緩やかに回復している」という言葉が大半を占め、秋口にかけ一部業種で不調がみられたものの、概ね堅調に推移した一年であった。福井県経済も春先の北陸新幹線敦賀延伸効果や政策効果もあって、全国同様、堅調な動きを維持している。

しかし、今回の中小企業景況調査からR6年10-12月の動向をみると、全体では景況感を示すDI値6項目中2項目のみの改善にとどまり、県内中小企業の景況がまだまだ厳しい状況にある一面をのぞかせている。項目ごとのDI値をみると、改善した項目は、仕入単価（逆指数）が前期65.4→今期62.1へ、採算が前期▲34.4→今期▲29.9へとプラス推移したが、売上高（前期▲14.0→今期▲18.2）、資金繰り（前期▲14.4→今期▲17.5）、従業員数（前期▲1.4→今期▲6.2）、業況（前期▲22.7→今期▲25.0）の各項目ではマイナス推移となった。先行き（R7年1-3月期）については、3項目で改善予想、3項目で悪化予想となっており、ここ暫くは予断を許さない状況が続くとみるべきであろう。

一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、売上高については、全国、福井県ともに悪化傾向となったが、採算については全国の悪化傾向に対し、福井県では持ち直しの動きをみせている。

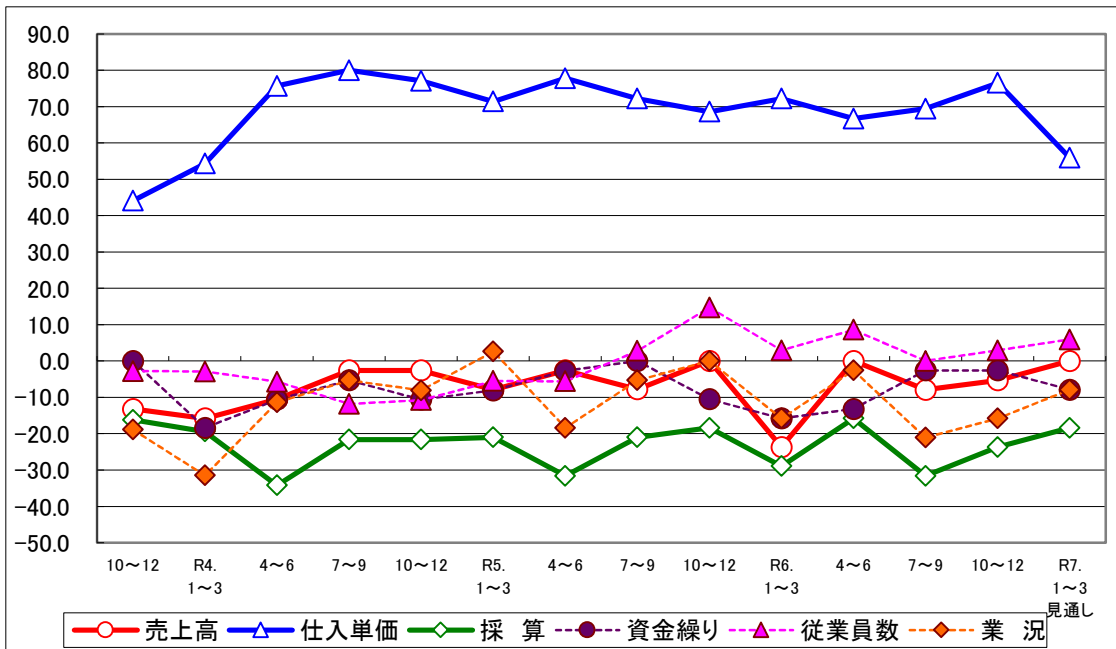
そのほか、今期の新規設備投資については、計画した企業9.1%に対し実施した企業が13.9%と、実施が計画を上回っている。先行きについては、計画している企業が7.9%にとどまり、投資意欲は今期をやや下回ることが予想される。

製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

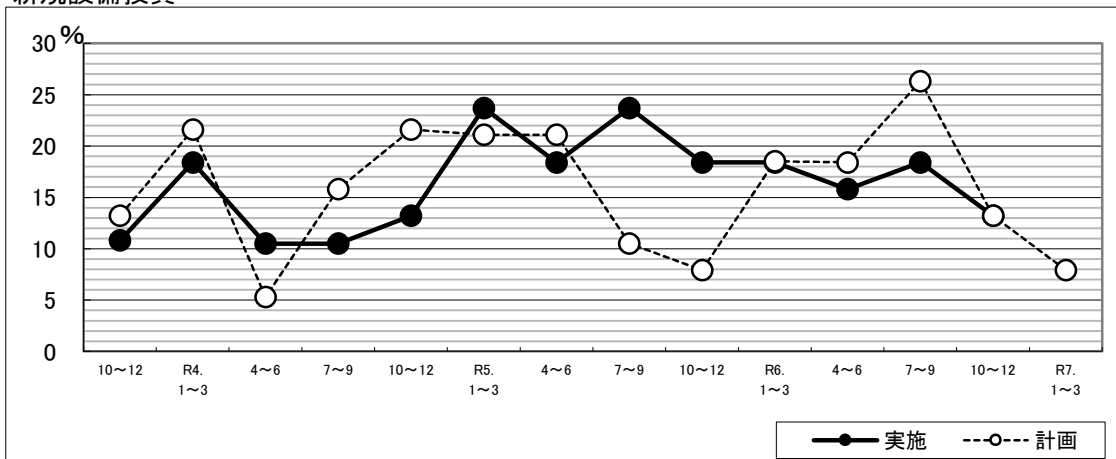
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
10~12	▲ 13.2	44.1	▲ 16.2	0.0	▲ 2.8	▲ 18.9
R4.1~3	▲ 15.8	54.3	▲ 19.4	▲ 18.4	▲ 2.9	▲ 31.5
4~6	▲ 10.5	75.7	▲ 34.2	▲ 10.6	▲ 5.7	▲ 11.4
7~9	▲ 2.6	80.0	▲ 21.6	▲ 5.3	▲ 11.8	▲ 5.3
10~12	▲ 2.6	77.1	▲ 21.6	▲ 10.6	▲ 10.8	▲ 8.1
R5.1~3	▲ 7.9	71.4	▲ 21.0	▲ 8.1	▲ 5.5	2.6
4~6	▲ 2.6	77.8	▲ 31.6	▲ 2.7	▲ 5.6	▲ 18.4
7~9	▲ 7.8	72.2	▲ 21.0	0.0	2.8	▲ 5.3
10~12	0.0	68.6	▲ 18.4	▲ 10.5	14.7	0.0
R6.1~3	▲ 23.7	72.2	▲ 28.9	▲ 15.8	2.9	▲ 15.8
4~6	0.0	66.7	▲ 15.8	▲ 13.2	8.6	▲ 2.6
7~9	▲ 7.9	69.4	▲ 31.6	▲ 2.6	0.0	▲ 21.1
10~12	▲ 5.3	76.5	▲ 23.7	▲ 2.6	2.9	▲ 15.8
R7.1~3見通し	0.0	55.9	▲ 18.4	▲ 7.9	5.9	▲ 7.9

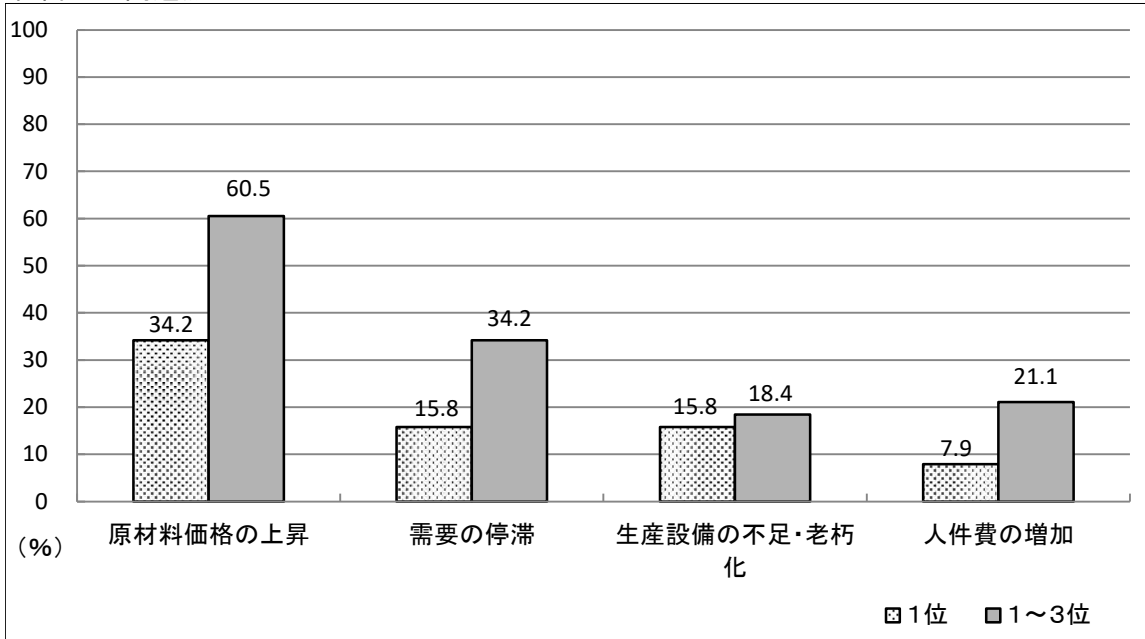
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・北陸新幹線開業以降、売上・利益とも好調に推移しているが、原材料高、人件費高等経費上昇に商品の値上げを11月から予定している。
- ・昨年が悪すぎただけで、良くなっているとは思えない。大企業中心の賃金の引き上げについていけない。まずは下請け企業への十分な対価の支払いを施してほしい。零細企業では最低賃金、賞与も支払えない状況。
- ・安定した受注状況もあり、景況は上向きの方にはあるものの、現場で働く人間が高齢の身となり、体力の低下とともに、無理な受注は負担増となり、後向きになることが増えたように思います。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、生産用機械の一部に弱い動きがみられるものの、主力の繊維工業では衣料向けが不振ながらカーシートなどの非衣料向けが堅調に推移、電子部品・デバイスもスマートフォン向けや自動車向けが持ち直している。その他の工業（眼鏡枠および部品）や化学なども持ち直しており、その結果、県内製造業全体でも、持ち直しの動きを強めている。

こうした中、今期（R6年10-12月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目中4項目で改善傾向、1項目で悪化傾向、残る1項目で横ばいとなっている。中小の県内製造業では、仕入価格の上昇や人手不足が続いており、引き続き厳しい経営状況にあるものの、業況の改善などから徐々に持ち直しの動きに向かっていることがうかがえる。ちなみに、項目別のDI値をみると、売上高が前期▲7.9→今期▲5.3、仕入単価（逆指数）が前期69.4→今期76.5、採算が前期▲31.6→今期▲23.7、資金繰りが前期▲2.6→今期▲2.6、従業員数が前期0.0→今期2.9へ、業況が前期▲21.1→今期▲15.8となっている。また、先行き（R7年1-3月期）については、DI値6項目中4項目が改善予測となっており、持ち直しの動きがさらに進むことが期待できる。

一方、新規設備投資の状況については、計画の13.2%に対し実施が13.2%となり、ほぼ予想通りの投資状況となっている。ただ、先行き（R7年1-3月期）については、何らかの投資を予定する企業が7.9%にとどまり、投資マインドが今期を下回ることが予想される。

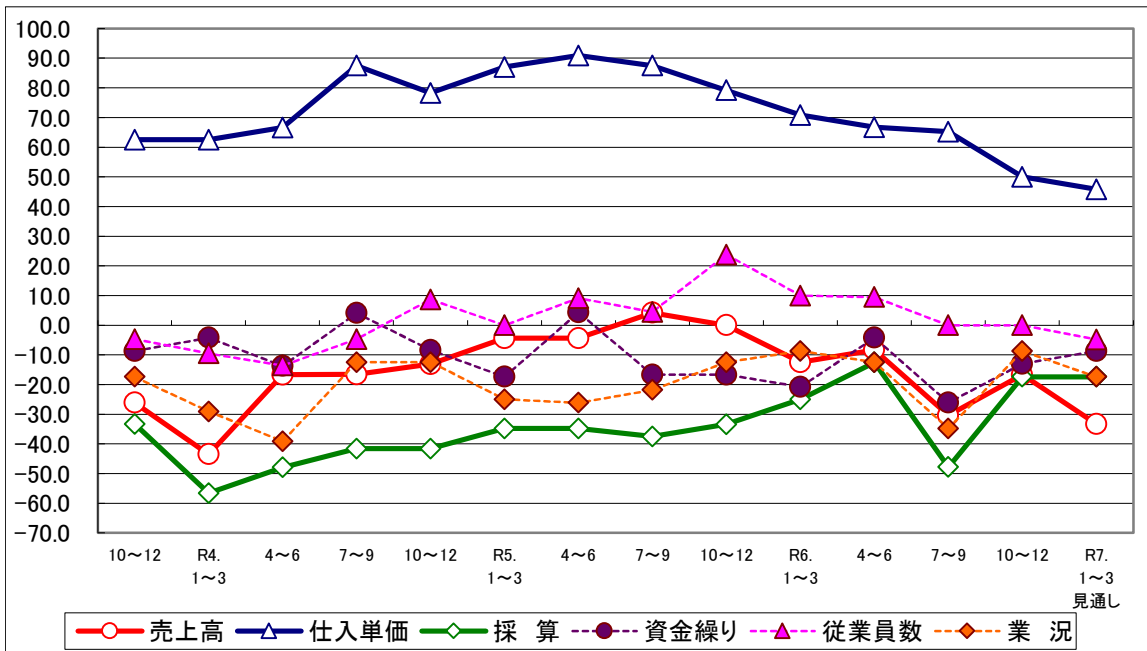
最後に、経営上の問題点については、「原材料価格の上昇」への指摘が最も多く、34.2%（1位～3位に挙げた企業60.5%）を占めた。その他、「昨年が悪すぎただけで、良くなっているとは思えない」「大企業中心の賃金の引き上げについていけない」など、悲観的な見方もみられる。

建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

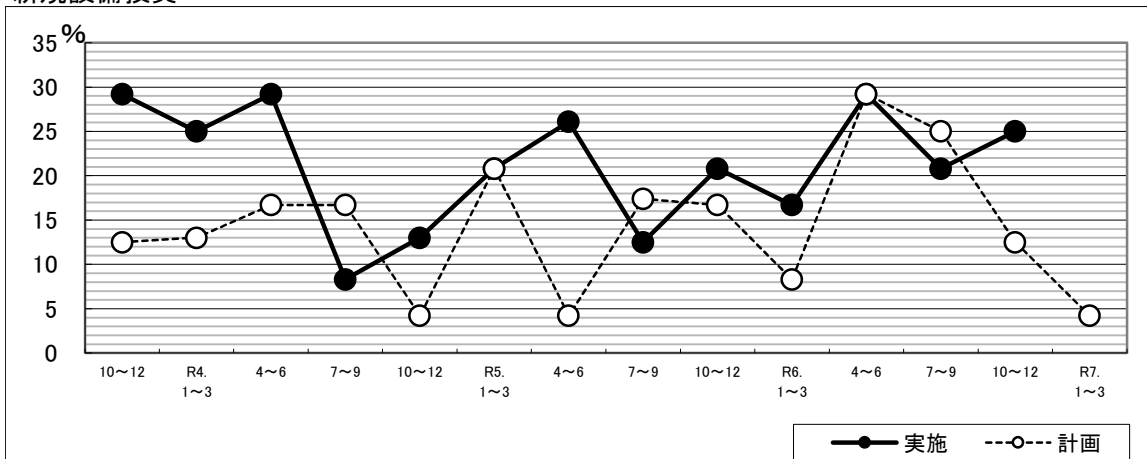
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
10~12	▲ 26.1	62.5	▲ 33.3	▲ 8.7	▲ 4.7	▲ 17.4
R4.1~3	▲ 43.5	62.5	▲ 56.6	▲ 4.2	▲ 9.5	▲ 29.1
4~6	▲ 16.7	66.6	▲ 47.9	▲ 13.7	▲ 13.6	▲ 39.1
7~9	▲ 16.6	87.5	▲ 41.6	4.1	▲ 4.7	▲ 12.5
10~12	▲ 13.1	78.3	▲ 41.6	▲ 8.4	8.7	▲ 12.5
R5.1~3	▲ 4.4	87.0	▲ 34.8	▲ 17.4	0.0	▲ 25.0
4~6	▲ 4.4	90.9	▲ 34.8	4.3	9.1	▲ 26.1
7~9	4.2	87.5	▲ 37.5	▲ 16.7	4.5	▲ 21.8
10~12	0.0	79.2	▲ 33.4	▲ 16.7	23.8	▲ 12.5
R6.1~3	▲ 12.5	70.8	▲ 25.0	▲ 20.8	10.0	▲ 8.7
4~6	▲ 8.3	66.7	▲ 12.5	▲ 4.2	9.5	▲ 12.5
7~9	▲ 30.4	65.2	▲ 47.8	▲ 26.1	0.0	▲ 34.8
10~12	▲ 16.7	50.0	▲ 17.4	▲ 13.0	0.0	▲ 8.7
R7.1~3見通し	▲ 33.3	45.8	▲ 17.4	▲ 8.7	▲ 4.8	▲ 17.4

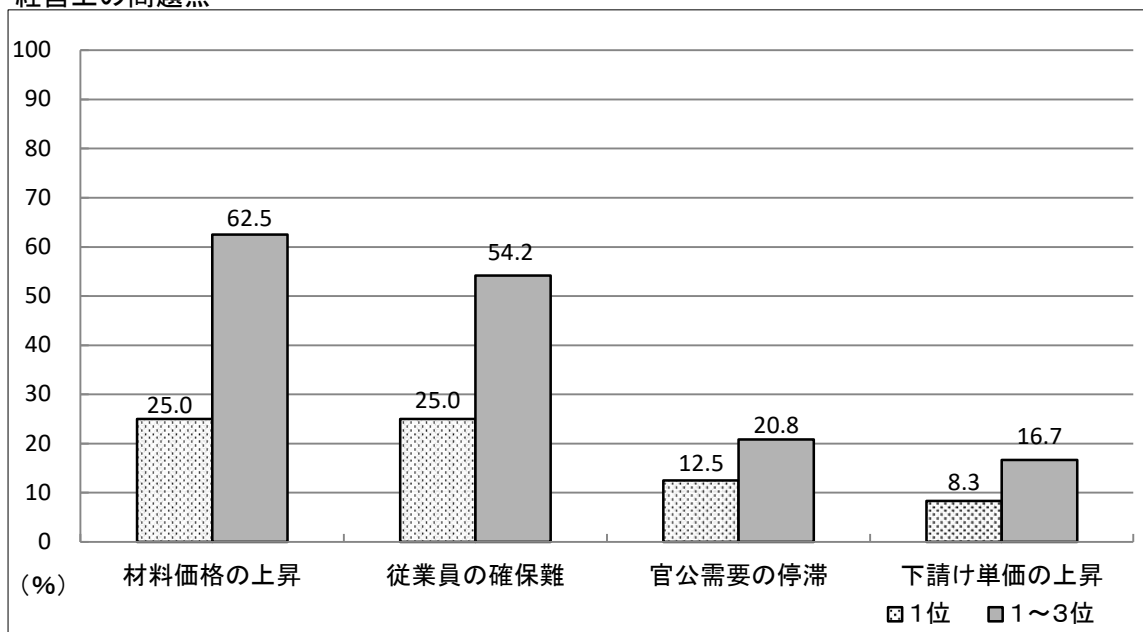
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・人手不足です。興味を持って土木の世界に入った従業員が、やはり大変ということで2年で工場にもどられることになりました。人材育成、人材確保としてとても難しい問題です。
- ・材料の値段上昇が止まらない状況であり、公共工事も少なく厳しい状況である。先の選挙で野党候補が当選し、公共工事の更なる減少が見込まれ、心配である。
- ・新幹線需要も終わり、地域的な特需の反動から相対的に公・民共積極的な設備投資が下火と感じる。各法令改正やコンプライアンス重視の観点から以前に比べ経費がかかるようになってきている。

建設業の景況

福井県内におけるR6年4-12月期の建設需要をみると、公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）で、請負金額が累計1,158億54百万円の前年同期比6.2%の増加、発注件数では同2,744件の同5.4%減となっている。主な発注者別でみると、県関連工事が342億47百万円の前年同期比15.1%減となったものの、市町村関連工事は368億16百万円の前年同期比3.8%増となった。そのほか国関連工事は253億42百万円で、同59.0%の大幅増加となっている。一方、住宅投資については、R6年4-11月の累計で、前年同期比12.4%減の2,571戸であった。利用関係別では、主力の持家が前年同期比0.8%減の1,416戸、貸家が同34.5%減の776戸となっている。住宅業界では、引き続き木材価格の高騰や人手不足などから厳しい経営環境を強いられている。ただ、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目のうち改善した項目が5項目、横ばいが1項目となり、持ち直しの傾向を強めている。各項目別のDI値をみると、売上高が前期▲30.4→今期▲16.7、仕入単価（逆指数）が前期65.2→今期50.0、採算が前期▲47.8→今期▲17.4、資金繰りが前期▲26.1→今期▲13.0、従業員数が前期0.0→今期0.0、業況が前期▲34.8→今期▲8.7となっている。また、先行き（R7年1-3月期）については、改善予想が2項目にとどまったことから、今期ほどの持ち直しは期待できないものと思われる。

一方、今期の新規設備投資については、計画の12.5%に対し実施が25.0%となり、実施が計画を上回っている。先行き（R7年1-3月期）については、何らかの投資を予定する企業が4.2%にとどまり、来期は低調な投資状況となることが予想される。

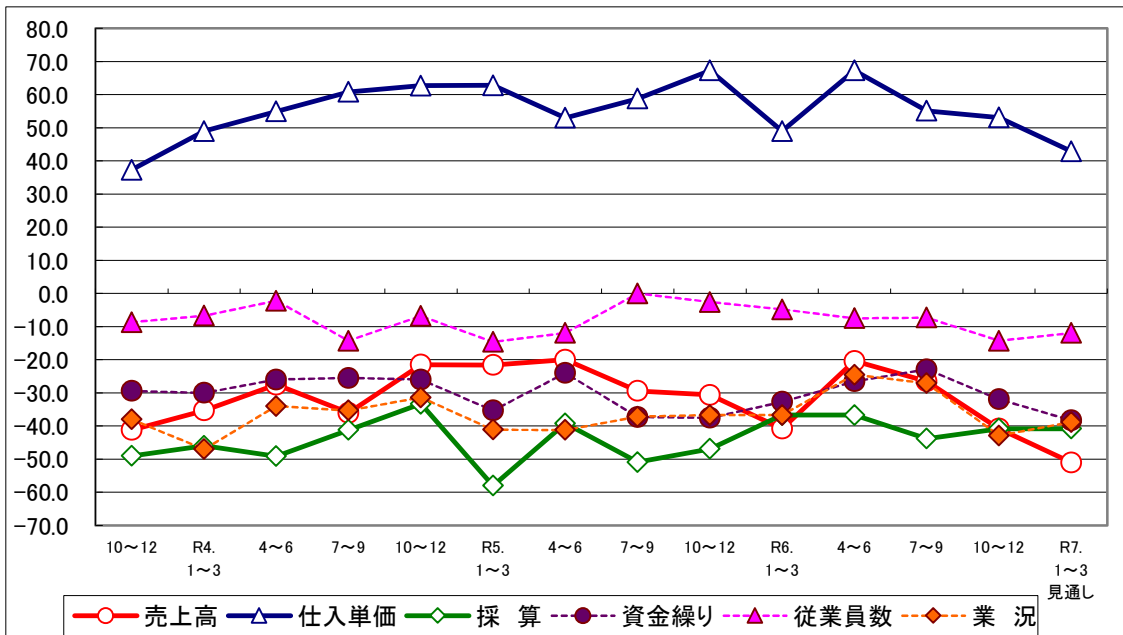
最後に、経営上の問題点については、「材料価格の上昇」が最も多く25.0%（1位～3位に挙げた企業62.5%）を占めた。個別の見解としては、原材料価格の上昇や人出不足、それに加え法令改正やコンプライアンス重視によるコストアップなどを指摘する声が聞かれた。

小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

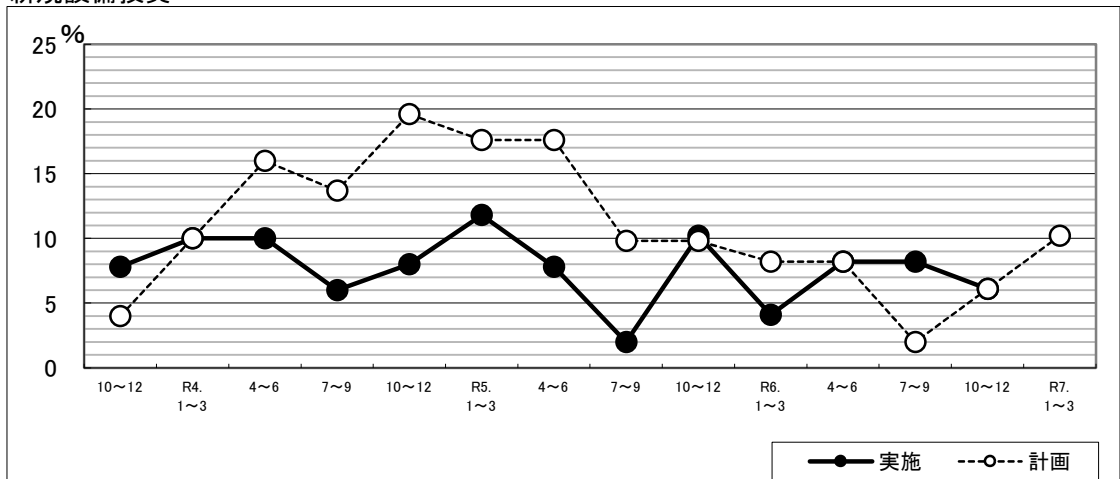
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
10~12	▲ 41.2	37.3	▲ 49.0	▲ 29.4	▲ 8.7	▲ 38.0
R4.1~3	▲ 35.3	49.0	▲ 46.0	▲ 30.0	▲ 6.7	▲ 47.0
4~6	▲ 27.5	54.9	▲ 49.1	▲ 26.0	▲ 2.2	▲ 34.0
7~9	▲ 36.0	60.8	▲ 41.2	▲ 25.5	▲ 14.3	▲ 35.3
10~12	▲ 21.5	62.7	▲ 33.3	▲ 26.0	▲ 6.8	▲ 31.4
R5.1~3	▲ 21.6	62.8	▲ 58.0	▲ 35.3	▲ 14.6	▲ 41.1
4~6	▲ 20.0	53.0	▲ 39.2	▲ 24.0	▲ 11.9	▲ 41.2
7~9	▲ 29.4	58.8	▲ 50.9	▲ 37.3	0.0	▲ 37.2
10~12	▲ 30.6	67.3	▲ 46.9	▲ 37.5	▲ 2.6	▲ 36.7
R6.1~3	▲ 40.8	49.0	▲ 36.7	▲ 32.7	▲ 4.8	▲ 36.7
4~6	▲ 20.4	67.3	▲ 36.7	▲ 26.5	▲ 7.5	▲ 24.5
7~9	▲ 26.5	55.1	▲ 43.8	▲ 22.9	▲ 7.3	▲ 27.1
10~12	▲ 40.8	53.1	▲ 40.8	▲ 31.9	▲ 14.3	▲ 42.9
R7.1~3見通し	▲ 51.0	42.9	▲ 40.8	▲ 38.3	▲ 11.9	▲ 38.8

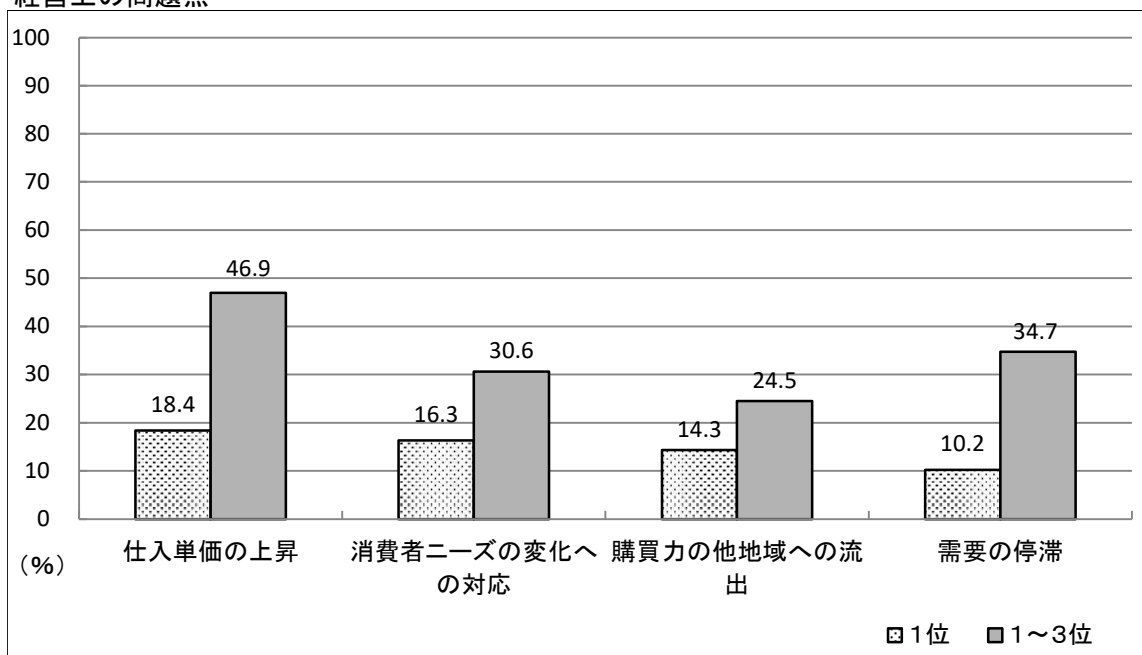
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・新幹線の効果はあまりなく、野菜などが高騰にあり販売がしにくい。旅館などの取引はよく、上昇傾向です。
- ・温暖化による気温の上昇のため、秋物の販売不振が顕著。一年を、春夏冬の3季節に今後対応する必要がある。
- ・4年に一度の需要期（教科書改訂）が少しあって、前年より売上は増加した。今後は従前に戻ってしまうので、業況は悪くなっていくだろう。

小売業の景況

最近の小売商況をみると、北陸新幹線の県内開業効果もあって、新幹線の停車駅がある地域では、百貨店・スーパー、ドラッグストアなど地域の専門店を中心に持ち直しの動きを持続している。ちなみに、近畿経済産業局が公表するR6年11月の県内大型店売上高（百貨店＋スーパー、全店ベース）（速報値）は、衣料品や家具・家電・家庭用品が不振ながら、食料品、身の回り品などが堅調に推移したことなどから、前年同月比で3.2%上昇し、73億98百万円と、6か月連続のプラスとなった。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目中2項目のみが改善傾向、4項目で悪化傾向を示している。ちなみに、項目別の状況を見ると、売上高が前期▲26.5→今期▲40.8、仕入単価（逆指数）が前期55.1→今期53.1、採算が前期▲43.8→今期▲40.8、資金繰りが前期▲22.9→今期▲31.9、従業員数が前期▲7.3→今期▲14.3、業況が前期▲27.1→今期▲42.9となっている。ただ、先行き（R7年1-3月期）については、6項目中3項目で改善予測、1項目で横ばい予測となっており、幾分持ち直しが期待できる。

一方、新規設備投資の状況については、今期、計画の6.1%に対し実施も6.1%と計画どおりの実施となった。先行き（R7年1-3月期）については、何らかの投資を計画する企業が10.2%と投資マインドが上向いている。

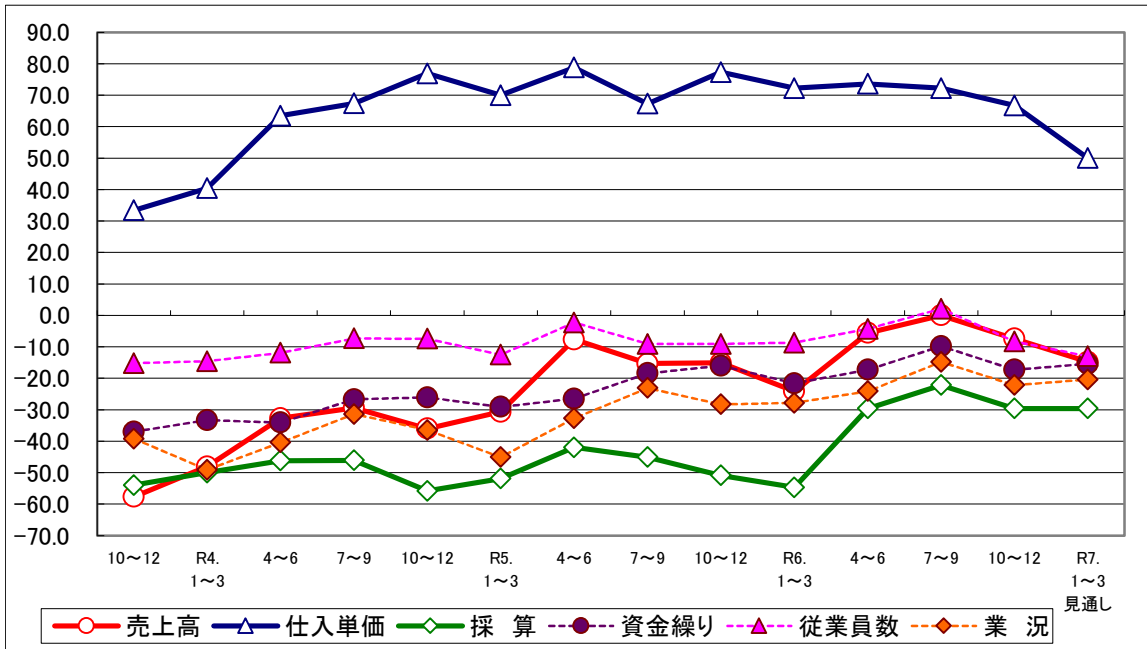
最後に、経営上の問題点については、「仕入単価の上昇」が最も多く、1位に挙げた企業ウエイト18.4%、1位～3位までに挙げた企業46.9%となった。その他の見解としては、「野菜などの高騰から販売がし難い」、「温暖化から秋物の販売がし難い」など、昨今の自然環境の変化によるダメージを懸念する見解がみられた。

サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

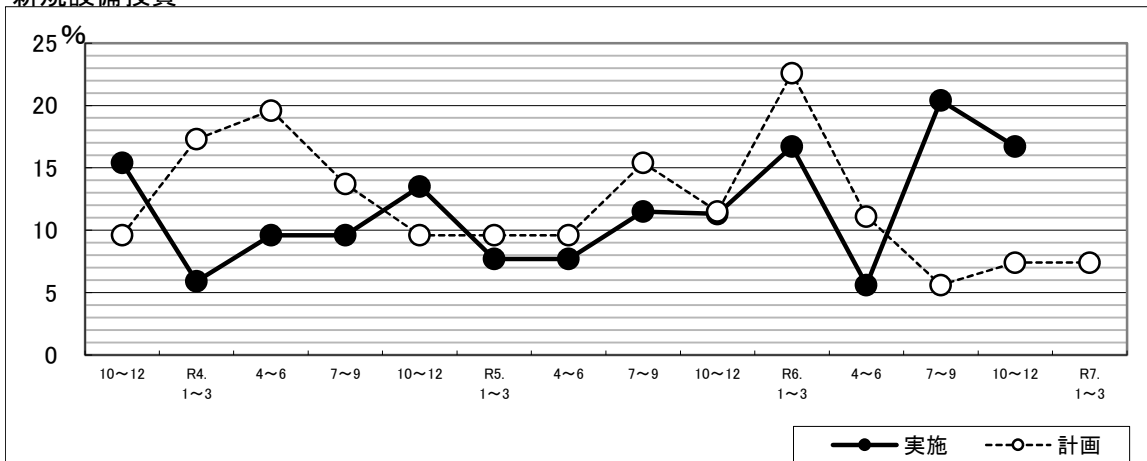
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
10~12	▲ 57.7	33.4	▲ 54.0	▲ 37.0	▲ 15.2	▲ 39.2
R4.1~3	▲ 48.1	40.4	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 14.6	▲ 49.1
4~6	▲ 32.7	63.5	▲ 46.2	▲ 34.1	▲ 11.9	▲ 40.4
7~9	▲ 29.4	67.4	▲ 46.1	▲ 26.7	▲ 7.3	▲ 31.4
10~12	▲ 36.0	76.9	▲ 55.8	▲ 26.1	▲ 7.4	▲ 36.5
R5.1~3	▲ 30.7	70.0	▲ 51.9	▲ 29.1	▲ 12.5	▲ 45.1
4~6	▲ 7.7	78.8	▲ 42.0	▲ 26.5	▲ 2.3	▲ 32.7
7~9	▲ 15.3	67.3	▲ 45.1	▲ 18.4	▲ 9.1	▲ 23.1
10~12	▲ 15.1	77.3	▲ 50.9	▲ 16.0	▲ 9.1	▲ 28.3
R6.1~3	▲ 24.1	72.2	▲ 54.7	▲ 21.6	▲ 8.7	▲ 27.8
4~6	▲ 5.6	73.6	▲ 29.6	▲ 17.3	▲ 4.3	▲ 24.1
7~9	0.0	72.2	▲ 22.2	▲ 9.8	2.1	▲ 14.8
10~12	▲ 7.4	66.7	▲ 29.6	▲ 17.3	▲ 8.3	▲ 22.2
R7.1~3見通し	▲ 14.8	50.0	▲ 29.6	▲ 15.4	▲ 13.0	▲ 20.4

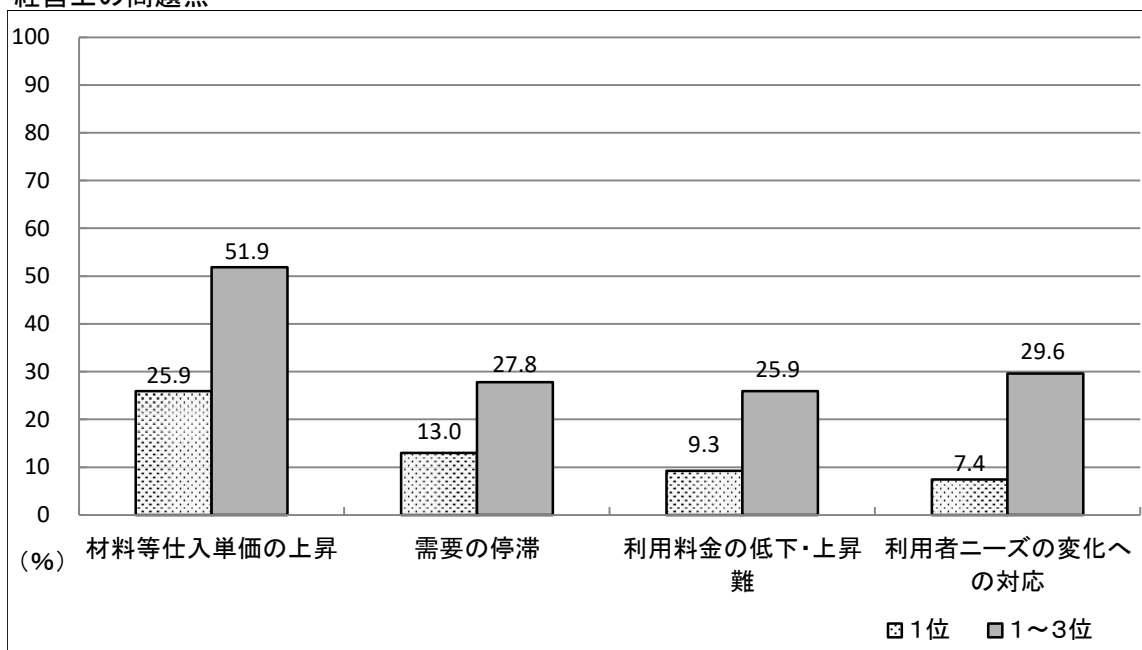
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・地域の過疎化が進み人口が減少している中、これ以上の人口減少が進まない事を期待して不変を選択。
- ・お客様が高齢化しているため、介護施設へ入られる方が増え、来店客数が減少し、どうすることもできない。近隣のショッピングプラザに低価格の美容室があり、顧客が流れてしまい、売上減少に至っている。
- ・新幹線開業により関東のお客様が増え、メディアに取り上げられた結果、関西などの他地域にも認知され、集客につながっている。

サービス業の景況






経済産業省が毎月公表する10月の第3次産業活動指数（季節調整値）は、指数値102.3、前月比0.3%の上昇、前年同月比（現指数）1.7%の上昇となった。業種別では、「医療、福祉」が前月比2.5%の上昇と2か月連続の上昇となったほか、「卸売業」も、前月比2.0%と3か月ぶりの上昇となり、その結果上昇した業種は11業種を数えた。ただ、『対個人／対事業所サービス』別の動向でみると、対個人サービスが指数値101.5で前月比マイナス0.4%と低下、対事業所サービスが指数値102.8、同0.2%と2か月連続の上昇となっている。これにより、サービス業全体では一進一退の状況にあることがうかがえる。





























































こうした中、今回の景況調査をみると、DI値6項目中5項目で悪化傾向を示すなど、業界全体として予断を許さない状況であることがうかがえる。項目別の指数は、売上高が前期0.0→今期▲7.4、仕入単価（逆指数）が前期72.2→今期66.7、採算が前期▲22.2→今期▲29.6、資金繰りが前期▲9.8→今期▲17.3、従業員数が前期2.1→今期▲8.3、業況が前期▲14.8→今期▲22.2となっている。また、先行き（R7年1-3月期）については、改善予想が3項目、悪化予想が2項目、横ばいが1項目となり判断にバラツキがみられる。

一方、新規設備投資については、計画7.4%に対し実施が16.7%と、実施が計画を大幅に上回っている。先行き（R7年1-3月期）については、何らかの投資を考える企業が7.4%と今期同様の計画となっており、今期並みの投資が予想される。

最後に、経営上の問題点については、「材料等仕入単価の上昇」（1位に挙げた企業25.9%、1位～3位までに挙げた企業51.9%）への指摘が最も多い。個別の見解として、高齢化やそれに伴う過疎化など、需要の構造的な変化を取り上げる見解がみられた。

全国・福井景気動向 令和6年10月～12月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0.0	-0.1～ -15	-15.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	横ばい	やや悪化	悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 14.5	69.3	▲ 27.0	▲ 15.7	▲ 4.0	▲ 19.1
	製造業						
	DI値	▲ 15.7	68.0	▲ 24.7	▲ 17.0	▲ 4.9	▲ 19.6
	建設業						
	DI値	▲ 11.3	71.0	▲ 21.4	▲ 9.2	▲ 5.1	▲ 11.4
	小売業						
	DI値	▲ 26.2	66.6	▲ 33.7	▲ 22.6	▲ 3.5	▲ 31.3
	サービス業						
DI値	▲ 6.1	71.7	▲ 25.5	▲ 12.7	▲ 2.3	▲ 14.1	
福井	全体						
	DI値	▲ 18.2	62.1	▲ 29.9	▲ 17.5	▲ 6.2	▲ 25.0
	製造業						
	DI値	▲ 5.3	76.5	▲ 23.7	▲ 2.6	2.9	▲ 15.8
	建設業						
	DI値	▲ 16.7	50.0	▲ 17.4	▲ 13.0	0.0	▲ 8.7
	小売業						
	DI値	▲ 40.8	53.1	▲ 40.8	▲ 31.9	▲ 14.3	▲ 42.9
	サービス業						
DI値	▲ 7.4	66.7	▲ 29.6	▲ 17.3	▲ 8.3	▲ 22.2	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。

